

A promotional banner for BTCC. On the left, the BTCC logo is displayed. In the center, the text '新規口座開設限定' (New Account Opening Limited) is enclosed in a white box. Below this, it says 'BTCC口座開設&入金で、最大17500USDTが獲得できる。お友達を紹介するとさらにボーナスをプレゼント!' (With BTCC account opening and deposit, you can earn up to 17,500 USDT. Introduce your friends and get an extra bonus!). On the right, there is an illustration of a person standing next to a large gift box with a ribbon, and another person walking away. A yellow button at the bottom right contains the text '今すぐ口座開設/詳細はこちら' (Open account now / Details here).

BTCC “**新規口座開設限定**”

BTCC口座開設&入金で、最大**17500USDT**が獲得できる。
お友達を紹介するとさらにボーナスをプレゼント!

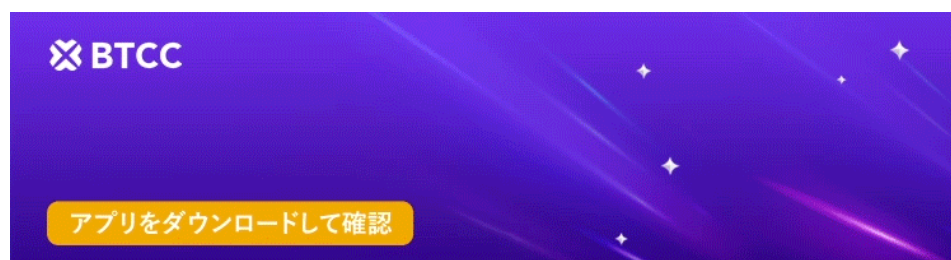
今すぐ口座開設/詳細はこちら

DApps（分散型アプリ）プラットフォームを6つ紹介!

原文:

<https://www.btcc.com/ja-JP/academy/crypto-basics/6-dapps-platforms>

ここでは **DApps（分散型アプリ）** 開発に利用できるプラットフォームについて詳しく紹介します。どんなプラットフォームがあるのか知りたい人は、ぜひチェックしてください。



[Google Playで手に入れよう](#) [App Storeからダウンロード](#)
[日本ユーザー様限定特典（10,055USDTギフトパック）<<<<](#)

6つのDApps（分散型アプリ）プラットフォーム

- **DAppsプラットフォーム①: イーサリアム(Ethereum/ETH)**
- **DAppsプラットフォーム②: イオス(EOS)**
- **DAppsプラットフォーム③: リスク(LISK/LSK)**
- **DAppsプラットフォーム④: ネオ(NEO)**
- **DAppsプラットフォーム⑤: ترون(tron/TRX)**
- **DAppsプラットフォーム⑥: ネム(NEM/XEM)**

▪ DAppsプラットフォーム①: イーサリアム(Ethereum/ETH)

[イーサリアム\(ETH\)](#)はDApps用プラットフォームとして最初に開発されたもので、2019年6月時点で存在しているほとんどのDAppsがこれを利用しています。

イーサリアムでDAppsを開発する場合、スマートコントラクトと呼ばれる自動で契約を管理してくれる機能を使います。また、これを利用すれば比較的簡単にトークンを発行できるので、使いやすいといえるでしょう。

さらに、イーサリアムは[ICO](#)にもよく利用されているので最も有名なDApps用プラットフォームと呼べるかもしれません。

▪ DAppsプラットフォーム②: イオス(EOS)

[EOS](#)もDApps開発にできるプラットフォームの1つで、運用時の最大の問題であるスケーラビリティ問題の対策を行っていることで知られています。

スケーラビリティ問題とは、データ量が増えることによってトランザクション処理が滞り、通信遅延が発生するものでDApps開発の最大の敵の1つといえるでしょう。

イーサリアムのスケーラビリティ問題が深刻になった場合、次のプラットフォームとして[EOS](#)に注目が集まるかもしれません。

• DAppsプラットフォーム③: [リスク\(LISK/LSK\)](#)

全てメインの[ブロックチェーン](#)上で処理するイーサリアムとは異なり、LISKではサイドチェーンと呼ばれる別のブロックチェーンを利用しています。

LISKのプラットフォームを利用してDAppsを開発する場合、それぞれのDAppsごとにサイドチェーンを用意し、そこでスマートコントラクトを実行します。

これによってメインチェーン上に流れるデータ量を抑制でき、スケーラビリティ問題が発生しにくくなっています。また、クラッキングの被害を受けた場合でもメインチェーンに影響が及びにくく、セキュリティ性能が高いといえるでしょう。

• DAppsプラットフォーム④: ネオ(NEO)

NEOは中国で開発されたDAppsプラットフォームで、NeoContractという独自のスマートコントラクトを実装しています。

独自のシステムなので今後浸透するかは不透明ですが、DApps開発における1つの選択肢として注目できるでしょう。

• DAppsプラットフォーム⑤: [トロン\(tron/TRX\)](#)

TRXはイーサリアムよりトランザクション処理速度が速いというメリットがあり、イーサリアムより快適に処理できるDAppsを構築するためのプラットフォームとして注目されています。

少しずつブロックチェーンゲームの開発にも用いられるようになってきているので、今後に期待できそうなプラットフォームです。

• DAppsプラットフォーム⑥: [ネム\(NEM/XEM\)](#)

NEMはもともとDApps用プラットフォームではなかったものの、ProximaXを実装することによってDApps開発にも利用できるようになりました。

また、NEMの要注目技術である「カタパルト」を利用しているのでトランザクション処理速度が早く、セキュリティ性能も高いといえるでしょう。

なお、ProximaXでDAppsを開発した場合、支払いや報酬に使われるトークンはNEMではなくXPXになります。ここが勘違いしやすいところなので、十分に注意してください。

ほかにも取引速度が極めて速いholochain、分散型の金融プラットフォームをテーマにしたwanchain、スケーラビリティ問題の解決を再重視したZilliqaなどのさまざまなコンセプトのプラットフォームが存在しています。

DAppsに興味があるならこれらのプラットフォームについてもぜひチェックしてみてください。

【他の記事】

[ステラルーメン\(XLM\)とは？仮想通貨の特徴、将来性を解説！](#)

[ライトコイン\(LTC\)とは？特徴や将来性を解説！](#)

[ビットコインを無料でもらう方法5選！ | 暗号資産の稼ぐ方](#)

[DAOとは？ 5分でわかる分散型自律組織DAO | 用語集](#)

[暗号資産投資と株式投資、どっちがいい？](#)